

越前焼

【産地組合】越前焼工業協同組合

（産地紹介）

越前焼は日本六古窯の1つに数えられ、その歴史はたいへん古く、平安時代末期まで遡ります。平安時代末期から焼かれ、現在約200基以上の古い窯が発見されています。これらのがかりな古い窯で、かめ、壺、すり鉢、舟徳利、おはぐる壺等、暮らしに使う器が焼かれていました。



釉薬（ゆうやく）を使わずに焼く焼き締めや、灰釉（かいゆう）、鉄釉（てつゆう）を中心とした、素朴な肌触りの陶器です。成形はろくろ、たたら成形のほか、越前焼独特のねじ立て成形（輪積技法）が今なお継承されています。飾り気のない作り、温かみのある土で焼かれた、暮らしに使う器としての美しさを持っています。その中にある独特な温かみを感じさせる風合が、日常生活の中の器として親しまれ、伝統としての器づくりを受け継ぎながら新しい越前焼の可能性と魅力を発信し続けています。

（トピック）

- ・ 越前町の四季折々の表情が美しい丘陵地帯の中心にある「越前陶芸村」は、東京ドーム約20個分余りの広大な敷地を有し、「福井県陶芸館(資料館)」、「登り窯」、「宿泊施設」、「宿泊施設」、「料理旅館」、「茶苑」など魅力的な施設が集まっています。